

形成外科専攻医研修カリキュラム

研修目的：以下の知識と技術を専門医のもとで学ぶ

1. 主要な形成外科疾患および関連各科疾患の診断・治療。
2. 救急救命診療(顔面・手の外傷、熱傷、再接着など)の初期対応。
3. 医学生・研修医・看護師に対し適切な指導ができる知識・技術。
4. 日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医受験に必要な態度・知識・技能。
5. ロテーション研修希望者(2ヶ月以上)については、1年次研修を変則的に運用する。

研修内容：

1年次

救急救命診療における診断・治療と総合治療計画(入院・術前検査・手術・術後管理)作成を2年次・3年次・専門医のもとで学ぶ。

修得すべき手技

救急救命：簡単な創傷の診断・治療・説明

手の外科(骨折・腱損傷・軟部組織損傷)診断

顔面軟部組織損傷の診断・縫合

熱傷(10%以下)の局所処置・全身管理

総合治療計画の作成

入院・退院時に必要な書類の作成・手続き・説明

全身麻酔、腰椎麻酔に必要な術前・術後の全身管理の理解

手術の申込み・各種検査の申込み

病棟回診 入院・退院時に必要な書類の作成・手続き・患者への説明

治療に必要な安静度、薬剤、手術の理解と説明

看護師、リハビリ訓練師などへのオーダー法

手術 瘻痕および腫瘍・Z形成、W形成術・皮弁形成・植皮術・褥瘡のデブリード・顔面骨骨折・マイクロサージェリー・他科との合同手術の理解と補佐

愛媛形成医会・長崎懇話会・愛媛県立病院学会などで発表、手術検討会・抄読会参加

2年次

簡単な救急救命診療、総合治療計画を自らが判断する。判断を専門医に説明すると共に、専門医指導のもとで自らが行う。複雑な疾患に対しては indication を決定する過程を学び、先天性疾患とマイクロ手術に対する知識と手技の修得をおこなう。

修得すべき手技：

救急救命：簡単な創傷の診断・治療・説明

手の外科診断・治療(骨折・腱損傷・軟部組織損傷)

顔面軟部組織損傷の治療・顔面骨骨折の全身管理

熱傷(30%以下)の局所処置・全身管理

総合治療計画の立案と実施;専門医の指導下を実施する

全身麻酔・腰髄麻酔に必要な術前、術後の全身管理

病棟回診 入院・退院時に必要な書類の作成・手続き・患者への説明

治療に必要な安静度、薬剤、手術の理解と説明

看護師、リハビリなどへのオーダー法

手術

瘢痕および腫瘍・Z形成、W形成術・皮弁形成・植皮術・褥瘡の創閉鎖・
顔面骨折の治療の実施・不全唇裂、軟口蓋裂・耳介の奇形・手足の先天性疾患・マイクロサージェリーの知識、手技の研修

愛媛形成医学会・長崎懇話会・愛媛県立病院学会で発表、手術検討会・抄読会参加

3年次

- 1) 高度な indication の決定を必要とする複雑な救急救命診療や総合治療計画を専門医の指導のもとに立案する。2) 1年次、2年次の指導を行う。3) 顎顔面外科・マイクロサージェリー・美容外科などの知識と技術の習得が要求される。

修得すべき手技：

救急救命：高度な創傷処置(剥奪創など広範囲皮膚欠損症例)

手の外科治療(切断指・多発性・軟部組織欠損)

顔面軟部組織損傷の治療・顔面骨骨折(多発性)の全身管理

熱傷(30%以上)の局所処置・全身管理

総合治療計画の立案と実施;複数損傷や合併症を有する患者を管理する

他科とのチーム医療における形成外科の役割・分担の理解

全身麻酔・腰髄麻酔に必要な術前、術後の全身管理

病棟回診 入院・退院時に必要な書類の作成・手続きの実践

本人や家族への診療方針・手術説明・術後説明

他科医師・看護師・リハビリ訓練師などへの説明と指示

手術

顔面瘢痕、関節部瘢痕の治療(瘢痕の解除と欠損部再建)・皮膚悪性腫瘍の総合的治療(EBMに基づく化学療法、放射線療法、手術と再建)・褥瘡の管理・唇裂、口蓋裂 1次修正術・耳介の奇形(小耳症、耳介変形など)・手足の先天性疾患・陳旧性外傷・顎顔面外科(多発性骨折、下顎骨切り、上下顎骨切りなど)の治療・マイクロサージェリーの助手(指の再接着、組織複合移植など)・形成外科関連科(外科、耳鼻科、脳外科)の必要な知識と手技の修得・美容外科に対する知識の修得・人工材料の知識の修得(人工骨、シリコン、義歯など)・マイクロの知識と手技の修得(遊離皮弁、donorの選択)

日本形成外科総会・地方会、日本顎顔面外科総会、日本熱傷学会総会・地方会などで
発表、論文作成
手術検討会・抄読会参加

評価項目

A：目標に到達 B：目標に近い C：目標に遠い

	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
救急救命：primary care						
1) 処置、手術を前提とした諸検査の実施						
2) 手の外傷、検査と診断、処置						
3) 顔面外傷、検査と診断、処置						
4) 熱傷、深度の判定、面積の算定、重症度の判定						
広範囲熱傷の全身管理の理解						
熱傷の局所処置、全身管理						
総合治療計画の立案と実施						
1) 外来診察・記録が正確にできる						
2) 的確な検査計画(レントゲン、CT、MRI など)ができる						
3) 検査の指示、遂行、診断ができる						
4) 後天性疾患における治療内容の把握						
皮膚腫瘍の治療法						
皮膚、軟部組織再建の基本概念の理解						
肥厚性瘢痕拘縮・ケロイドの理解						
褥瘡と皮膚潰瘍の発生、処置の理解						
手の外傷(再接着を含む)、検査と診断、リハビリ						
顎顔面外科の検査・診断・咬合関係の理解						
熱傷の治療						
マイクロサージェリーの理解(遊離皮弁)						
5) 先天性異常における治療内容の把握						
唇裂、口蓋裂の治療						
小耳症、耳介変形の治療						
多指、多合趾症の治療						

6) 術前の全身検索や管理の計画が立てられる						
形成外科総論の修得						
患者・家族に的確な治療方針、手術説明ができる						
7) 形成外科の基本処置の修得						
1) 局所麻酔法、伝達麻酔法						
2) 創部の洗浄、消毒						
3) 各々の基本的な手術						
4) 形成外科的縫合法						
5) 創傷の管理(各種包帯法と固定法)						
6) 術後の創管理と創状態の把握(抜糸、ケア)						
7) 形成外科治療機器の操作ができる						
8) 移植材料採取術(皮膚、骨、軟骨、腱)						
8) 術後の全身管理の計画が立てられる						
9) 書類作成、手続きが締め切り内にできる						
他の医師と良好なチーム医療を形成できる						
看護師、リハビリ、薬剤師などと良好な環境形成ができる						
抄読会、症例発表、手術記録作成が、遅滞なく行える						

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
7:30～		手術検討会		新患紹介・抄読会	
8:30～ 12:00	外来・病棟	外来・病棟	回診	外来・病棟	外来・病棟
13:30～ 17:00	全身手術	局麻手術	回診・手術	局麻手術	全麻手術